



RISSHO UNIVERSITY NEWS

April, 2022 Vol.153



入学式

2022年4月1日
9学部
2,564名入学



卒業式

2022年3月23日
8学部
2,300名卒業

Topics

- 2 新学長挨拶
- 6 輝く人 キャリア育成奨学生の活躍を紹介
- 8 150周年関連イベントを実施
- 11 立正人 東京2020パラリンピックメダリストを取材
- 14 ラグビー部男子、悲願の1部復帰
- 16 瑞宝中綬章と文部科学大臣賞のお知らせ

Location

品川キャンパス
〒141-8602 東京都品川区大崎4-2-16 / Tel.03-3492-5250
熊谷キャンパス
〒360-0194 埼玉県熊谷市万吉1700 / Tel.048-536-6010

Website

学園新聞
Web版は
こちらから



新たな学長のもと 次のステージに向

新学長より ご挨拶



寺尾 英智 学長

立正大学は、1872（明治5）年の「小教院」設立を起点として、2022年で開校150周年を迎えました。源流にあるのは、1580（天正8）年に日蓮宗の教育機関として開設された「飯高檀林」です。宗派の教義を研鑽する伝統的な僧侶養成機関としての役割を果たしながら、明治期には聖職者養成という点で共通項も

あるヨーロッパ発祥の学問体系を果敢に導入。近代的な学校制度の中で、幅広い教養教育と実学教育による人材教育を進めながら、9学部16学科7研究科を擁する総合大学へと発展してきました。

そして、次の50年、100年に向け、立正大学は伝統と新たな知を融合させることで、社会に革新をもたらす人材育成を推進していきます。教育機関としては、学生・院生が卒業した後も生涯にわたって成長していけるための基礎力を養いながら、個性を磨き専門性を育む環境を整備し、研究機関としては、先進的な研究成果を学生指導に還元するとともに、直接的にであれ間接的にであれ、地域社会、そして国際社会に役立てていきます。

本学が建学の精神として掲げ、今日に至るまで重視してきているのは「真実・正義・和平」です。ただし、変化が激しく、価値観の多様化が進んだ現代社会では、例えば「正義」の解釈は人それぞれ。何が正義であり、なぜ正義といえるのか、解釈はひとつではありません。そこで大切なのは、独り善がりな解釈ではなく、自立的・自律的に既存の概念や価値観を捉えること。批判的精神を持ち、必要とあれば自らの解釈を軌道修正することです。新型コロナウイルスの感染拡大や環境破壊の問題、紛争や人権の問題など、国内外におけるさまざまな社会的課題を自分の身に置きかえて考察し、納得した上で課題解決や社会貢献に向けて行動することが重要なのです。言わば「正解のない問い」に対して物事を絶対視することなく、主体的に考え、「腑に

落ちる」感覚を持った上で行動に移してほしいと考えています。

昨今は高度な専門性を発揮するフィールドが分化し、エキスパートの多様化が進んでいます。一方で、複雑化した社会では1分野の知見のみでの課題解決は容易ではなく、1人の知識や技術によって実現できることには限界があります。だからこそ大いに活用してほしいのが、立正大学の総合力です。

学生・院生の皆さんに期待したいのは、幅広い学びに挑戦すること。1分野を学ぶだけでは見えなかったことが、多分野を学ぶことで見えてくることがあります。自分には関係ないと考えていた点と点がつながることで新発見の喜びがあり、学びの醍醐味や“おもしろさ”を感じられるでしょう。多分野の学びは刺激に満ち溢れ、新たな気づきを積み重ねるチャンスが豊富です。多様な知見が融合することで「腑に落ちる」感覚も実感できますので、そこから社会に資する行動につなげてほしいのです。複合的な学びの中で、新たな可能性を見出す目を養い、自らの可能性の芽を開花させてほしいと願っています。

こうした総合大学としての立正大学の価値もまた、学内外での刺激によって進化していくものです。教員の多様な専門性と、学生・院生の多様な個性とを融合させるべく知恵を出し合いながら、日々更新されていくべきものです。そのためにも、教職員が一体となって学部間の連携や学外とのつながりを強化し、企業や自治体などとの連携協定も締結されています。ぜひ学生・院生の皆さんには、学内外での多様な経験を重ねることで、社

新副学長よりご挨拶

杉原 周樹 経営学部 教授

このたび、副学長を仰せつかりました経営学部の杉原周樹と申します。このような大役を拝命し、身が引き締まる思いです。この4月から財務、学生生活関連、情報環境基盤センター、図書館などの分野を担当いたします。研究分野は企業会計ですが、法人経営の実態は理論より複雑です。そこで、教職員・学生の皆様、その他関係者の方々の様々なご意見を踏まえて調整を行い、あるべき大学の姿を現実のものとするために邁進する所存であります。至らぬ点多々あるとは思いますが、何卒よろしくご挨拶申し上げます。



位田 央 法学部 教授

この度副学長を拝命致しました、法学部の位田央と申します。寺尾英智学長の下、150周年を迎える立正大学が200周年を見据えながら今後も平和社会の実現に向けて貢献し続け、着実に前進し続けるために、微力ながら全力を尽くして参ります。立正大学に奉職してまだ18年ですが、その間、法学部長を5年間務めた経験を生かし、学生・卒業生・教職員の皆様の御意見をしっかりとおうかがいしながら、正確な事実に基づいた行動を常に意識して活動して参ります。どうぞ宜しくお願い申し上げます。



古屋 健 心理学部 教授

平成22年に立正大学に赴任し、今年で13年目となります。この間、微力ながら心理学部の発展のために働いてきました。このたび副学長という大役を仰せつかり改めて身が引き締まる思いがしております。コロナ禍の中で、大学教育のあるべき姿が問われています。開校150周年を迎える今こそ、建学の精神に立ち戻り、衆知を結集して新たな立正スタンダードの確立に取り組むべき時であると考えます。そのためにも、みなさまのご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。



濱畑 芳和 社会福祉学部 教授

私の専攻は社会保障法学です。重要な基本的人権の一つである生存権の保障について、とりわけ障害者や高齢者などの社会的弱者に焦点を当て、自己責任では解決しえない生活問題を研究課題にしてきました。学問研究、人材養成においてもコロナ禍の下での新たな社会課題への対応は焦眉であり、社会的公器としての学園の責務です。開校150周年を迎える本学の歴史と伝統を受け継ぎつつ、未来に生きる私たちの叡智を結集すれば、前途は必ずや洋々たるものであると確信します。私も微力ながら力を尽くす所存ですので、お力添えのほどお願い申し上げます。



迎えた2022年

と、立正大学は けて始動します。



会に貢献する人材として成長して欲しいと思います。
私は学長として健全かつ独自性のある学園経営に努めてまいります。より強固な財政基盤とガバナンス体制を構築しながら、学生の生涯にわたる成長と、立正大学としてのさらなる発展に向けて努力していく所存です。

理事長より
ご挨拶



望月 兼雄 理事長

立正大学は本年（令和4年）に開校150周年を迎えます。昨年は熊谷キャンパスに文理融合型のデータサイエンス学部を新設し、未来に因應する学部を開設しました。また品川キャンパスでは150周年記念館を竣工して街とキャンパスをつなぐゲートウェイとして地域性を考え、学内・学外に本学の教育・研究に対応できる充実した設備を設置しました。このように、立正大学は9学部16学科大学院7研究科10研究所となり総合大学として発展しています。
世界ではコロナ禍が続いています。このコロナ禍が収束しても新たな災害はこれからも発生する可能性があります。そ

れを踏まえて本学が取り組む姿勢として、学生の健康と安全は元より、新たな教育環境を提供することが重要になります。今回のコロナ禍でデジタルトランスフォーメーション（DX）が急速に普及しました。このデジタルの多様化を活用した学修環境を提供して、新たに入学してくる学生たちの為に時代に適応した知識と技術を学んで学問の面白さを発見していただきたいと思ひます。大学と社会は密接な関係を持っています。在学中に社会の仕組みや現状を学んで理解していただきたいと思ひます。

「真実・正義・平和」の立正精神を身につけて社会に貢献する人材「モラリスト×エキスパート」を養成する。そして「立正安国論」に基づく、正しきを立てて国や社会の平安と人々の安寧を目指す、正義を貫き真実に向かって邁進する建学の精神・立正精神を実践する事が本学の使命であります。

これからも時代に即応した社会に貢献する人間形成の教育機関として、さらなる教育・研究活動の充実そして本学の特色を内外に明確に提示していきたいと思ひます。

本年度は新たな中・長期計画策定の取り組みや、記念式典や周年史の刊行などさまざまな各種事業を展開してまいります。この150周年という歴史と伝統、そして革新を融合させて教育と研究、そして社会貢献の推進に向けて異体同心で取り組んでまいります。今後とも何とぞご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

寺尾 英智 仏教学部 教授
1957年千葉県生まれ。立正大学仏教学部宗学科卒業後、立正大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得満期退学。立正大学仏教学部にて助手、非常勤講師、専任講師、身延山大学仏教学部にて助教授、准教授、教授を務めた後、2011年に立正大学仏教学部宗学科教授となり、2013年より同学部長。著書に『日蓮信仰の歴史を探る』（山喜房佛書林）や、『反骨の導師 日親・日奥』（吉川弘文館）などがある。



鈴木 厚志 地球環境科学部 教授

この度、副学長を拝命いたしました鈴木厚志です。地球環境科学部地理学科に所属し、地理情報科学と地図学の教育・研究に携わり、国内においては東北地方や北陸地方の諸都市を、国外においてはアメリカ合衆国北西部や中国長江中下流域・内蒙古自治区をフィールドとしてきました。副学長としては、主として施設、研究推進・地域連携、強化クラブそして熊谷キャンパス全般を担当します。正しきに向う学生の知性や情操を養い、共に学ぶ喜びと希望を分かち合いたいと思ひます。

令和3年度 各種受賞者紹介

学園褒賞

学術、文化、スポーツその他の分野において顕著な業績を挙げ、学園および学園が設置する学校の名を高めた者に対し、その栄誉をたたえ、学園への帰属意識の高揚に資することを目的とした賞です。

【受賞者】
長谷川勇基さん 平井美喜さん 大谷芽生さん
パティヴァカロロ・ライチェル・海遥さん
黒木理帆さん 山中美緒さん
※ともに東京2020オリンピック&パラリンピック出場

蘊奥賞

学術研究もしくは教育活動を通して立正大学の社会的評価の高揚に大いに貢献した本学の教員を対象として授与するものです。

【受賞者】
蘊奥本賞 社会福祉学部 溝口元 教授
蘊奥奨励賞 仏教学部 庄司史生 准教授
蘊奥奨励賞 心理学部 田村英恵 教授
蘊奥奨励賞 データサイエンス学部 平田英隆 講師

ベスト・クラス賞

教育方法の工夫または改善に取り組み、質の高い授業実践が認められた授業科目および授業担当教員を顕彰するための賞です。本学の学部学生が回答する授業改善アンケートの集計結果において、受講者の満足度が高く、特別に高いポイントを獲得した授業科目を受賞候補科目としています。

[受賞授業科目]				
開校期	開設学部	所属学部	授業名	担当者
1期	地球環境科学部	地球環境科学部	大気環境シミュレーション	鈴木バーカー 明日香
	心理学部	非常勤	対人スキルトレーニングA	内藤 諒人
2期	心理学部	心理学部	心理学実験ⅡB(臨) / 心理学基礎実験ⅡB	武部 匡也
	文学部	非常勤	伝承文学2	立石 展大





先生に聞^{OSHiete!}

おおい たつお
大井 達雄先生

データサイエンス学部
データサイエンス学科

データの活用により よりよい観光振興を目指す



Q 大井先生が研究している学問ってなに？

研究テーマは大きく分けて2つあります。まずは観光統計を使用してデータ分析や政策提言を行っています。例えば、観光客が使ったお金が地域経済の活性化にどのくらい役立っているのか、または携帯電話の位置情報から人気スポットを把握し、効果的な観光振興を考えることなどがあります。もう1つは企業不動産マネジメント研究です。企業が所有や賃借している不動産の有効利用を考えています。例えば、新型コロナウイルス感染症の影響で在宅勤務が進んだこともあり、最近ではオフィス需要の減少が指摘されています。しかしながら、オフィスが完全になくなることはありません。今後は従業員の働く意欲がアップするようなオフィスがもたられます。

Q データサイエンスの分野は、観光にどう活かすの？

2010年代は日本に多くの外国人観光客が訪れました。みなさんご存じだと思います。多くの外国人観光客が有名な観光地に大量して訪れることによって、さまざまな弊害も発生しています。具体的には、観光バスによる交通渋滞の発生、ごみの増加、自然破壊や文化財の損傷などがあげられます。

今後は、それぞれの観光地が観光客の適正な受け入れ規模を把握することがもたられます。一部の有名な観光地では携帯電話の位置情報を解析することで適正規模を策定し、さらに混雑情報を提供することで分散化を図る取り組みが行われています。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、多様な技術を通じて、データの活用が進むことが予想されます。

Q 大井先生が考える、学生にオススメの観光地は？

個人的にスペインがおすすめです。スペインは世界有数の観光立国でもあり、世界遺産や自然遺産も数多くあります。食べ物では魚介類や生ハムなどが美味しく、地域や時期によりますが、物価が安いのも魅力的です。

ただし、新型コロナウイルス感染症が収束するまでは海外旅行に躊躇する学生も多くいらっしゃると思います。そのような場合は、地元の観光地を訪ねてください。地元の歴史や文化、または観光資源の良さを知らない人も多いです。地元での観光行動を通じて、郷土愛を醸成していただければと思います。

いずれにせよ、在学中、できるだけたくさん旅行をしてください。教室では学ぶことのできない知識や経験を得ることができます。



大井 達雄 教授

所属：データサイエンス学部 データサイエンス学科
研究分野：観光統計 企業不動産マネジメント

略歴

兵庫県出身。1999年に立命館大学大学院経営学研究科博士後期課程を修了し、その後、鈴鹿国際大学、藍野大学や和歌山大学で教鞭をとる。2021年4月から立正大学データサイエンス学部教授に就任する。観光や不動産に関するデータ分析を中心に研究を行っている。



アジア文化を建造物から読み解く 『仏教』と『美術』の関係性とは？

くぼ まきこ
久保 真紀子先生
仏教学部 仏教学科

Q 久保先生はどんな研究をしているの？

カンボジアの世界遺産として有名なアンコール遺跡群について研究しています。東南アジア大陸部に版図を拡げたアンコール朝（9～15世紀）の時代、歴代の王たちは数々の壮麗な寺院建築を築きました。それらは往時の技術や信仰を私たちに伝えてくれる貴重な遺産ですが、実際には後世の増改築や修復で改変された箇所や、内戦や盗掘といった人為的要因により遺失した箇所も多く、必ずしも創建当初の姿を保っているわけではありません。私は、寺院に残る浮彫や碑文等をもとに、創建時の寺院にどのような尊像が祀られていたのか、また、それら諸尊像の配置構成に当時の政治や宗教がどのように関わっていたのか読み解くことを目指しています。

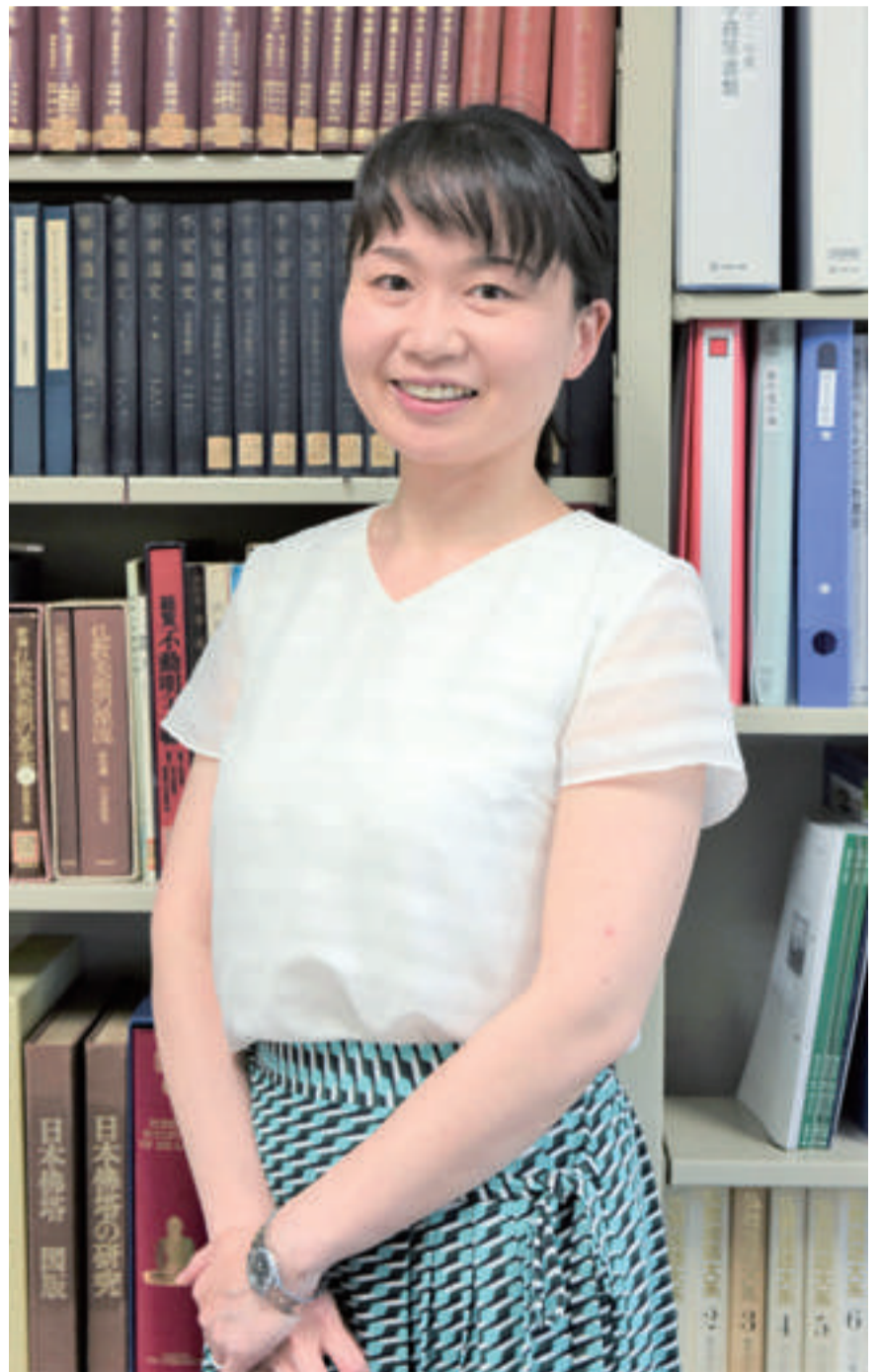
Q 現地で実物を見ることは何故大切なの？

例えば、何か美術作品について調べるとき、本やインターネットを使えば容易に情報が得られます。しかし、そこで得られる情報は他の誰かによって収集され選別されたものに過ぎず、自分自身が作品を見たときに得られる情報量とは比べ物になりません。

遺跡調査での体験です。叙事詩『ラーマヤナ』に登場する猿の英雄ハヌマーンが主人公ラーマの妻シーターを探し出す場面を浮彫した崩落石材を調べていたとき、ふとその石材を真上から見下ろしてみると、ハヌマーンの手のひらに小さな輪状のものが刻まれていることに気づきました。それは、ラーマがシーターに渡すようハヌマーンに預けた指輪でした。これは実物を見て初めて分かったことで、正面から撮影した写真では知り得ない情報でした。とても感動したのを覚えています。

Q 仏教と美術はどんな関係があるの？

釈迦入滅後、遺骨を納めるための仏塔が建立されましたが、その周囲を荘厳するために表された文様や説話図の浮彫が仏教美術の始まりとされます。それ以降、仏教の広まりに伴い各地で新たな仏教美術が展開します。東南アジアでは、仏教説話の中でも成道後の釈迦を風雨から護った龍王のエピソードが特に好まれ、10～12世紀に多くの彫刻が作られました。インドでは既に前1世紀から作例が知られていますが、東南アジアでよくみられるような、釈迦が龍王のとぐろの上に坐し、その背後で龍王が鎌首を膨らませて守護する表現は、3世紀頃以降、南インドやスリランカを経て東南アジアに伝わったと考えられています。仏教美術は、各地で仏教が受容される過程や地域間交流を知る手がかりとなるのです。



久保 真紀子 講師

所属：仏教学部 仏教学科
研究分野：仏教美術史・アジア文化史（東南アジア）

略歴

大学時代にアンコール期の彫刻や建築装飾に興味を持ち、それ以降研究を継続。上智大学大学院を経て、2013年に博士号取得。約2年半に渡るカンボジア留学では、現地の研究機関に所属する専門家との交流を深めた。帰国後は多摩美術大学等で教鞭をとり、2019年に本学仏教学部に着任し、現在に至る。

みんなのゼミ自慢



奥富 庸一 ゼミ
(社会福祉学部子ども教育福祉学科 教授)



ハグくま広場で実施したかきごおりづくり

☑ 「楽しい!」も「学びたい!」も全部できる 奥富ゼミナール

奥富ゼミは、イベントがたくさんあります。コロナ禍で実施できないものも多くありましたが、ゼミの歓迎会やお疲れ様会、夏にはBBQを開催するなど、とにかく集まるのが大好きなゼミです。他にも『ハグくま広場』という遊びの広場を年に一度主催しています。この『ハグくま広場』では地域の子どもと保護者の方を熊谷キャンパスに招き、遊ぶイベントです。子育て支援センターベアリスと協働で、輪投げやおもちゃの魚釣り、平均台やマット、フラフープを使ったサーキットなどブースを設けます。全てゼミで企画・運営を行うので、どうやったら子どもたちは楽しんでくれるのか、保護者の方が安心できる遊び方であるかなど、先生とも相談しながらゼミ生主体でイベントを進めていきます。子ども教育福祉学科の1、2年生にもボランティアとして参加していただき、ゼミの雰囲気を感じてもらっています。子どもも学生も笑顔がたくさん溢れる素敵なイベントです。

卒業論文は、3年生から徐々に進めます。論文の書き方や資料集めの仕方などを教わり、自分のテーマを決め、プレゼンテーションを行います。3年生の時から発表の機会があるので、何を研究したいのか、考えをまとめることができます。4年生では夏に中間発表を行い、ゼミ生の前で卒論のテーマを明確にします。内容によっては保育園や幼稚園等に調査に行く場合もあります。幼児の体力測定を行うために幼稚園に行き、50m走やソフトボール投げなどの測定項目を設け、準備・運営を行うこともありました。実際に子どもたちと関わることでできる機会でした。

卒論発表は、岡本依子先生のゼミと合同で発表会を行います。4年間の集大成としてのイベントです。卒論発表会は3年生にも参加してもらい、運営面で支えてもらっています。

奥富ゼミは学生としての「楽しい!」も、「学びたい!」も、どっちも経験できるゼミです。奥富ゼミでよかったと心の底から思える私の自慢のゼミです。



記事: 石井 莉奈
(社会福祉学部子ども教育福祉学科2022年卒業、東京都立高島高等学校出身)

キャリア育成奨学生として活躍 生理の貧困解決に向けて奮闘中

経営学部経営学科4年 東京成徳大学高等学校出身
つつい りおん
筒井 利音さん

輝く人

キラリ モラリスト × エキスパート

筒井さんは、本学のキャリア育成奨学生として、3年生まで本学の広報課でアルバイト勤務をした4年生です。キャリア育成奨学生とは、在学中の奨学金を給付し、学内アルバイトなどの育成プログラムを通して、教育目標である「モラリスト×エキスパート」を体現した人材を社会に輩出するために特別に選考された学生です。

学内での生理用品の無料配布という新しい試み

これまで、学内イベントやフォーラムなど、様々なイベントを企画してきた筒井さんですが、現在企画している事業は、『無料で生理用品を利用できるディスペンサーを学内のトイレに設置する』というものです。企画趣旨について筒井さんは、「学生にとって生理用品にかかる費用は決して安くなく、性別による経済格差を解決したいと考えています。また、SDGsの目標でもある『すべての人に健康と福祉を』や『ジェンダー平等を実現しよう』などの社会的課題へ大学として貢献することで、立正大学のPRにもつながると思います。」と話します。

プレゼンテーションで企画の必要性を説明

企画にあたり、授業で学んだ『ビジネスで社会課題を解決する』という点を意識して会社を探し、わずか1週間ほどで学内の学生600人以上からアンケートを集め、大学の関係部署へ必要性を訴えるプレゼンテーションを行うなど、強い熱意と志を持って活動しました。その甲斐もあり、現在は学内でサービス設置について検討を進めています。一人の学生の活躍によって、大学で生理の貧困に関する一つの課題が解消される事も、そう遠い話ではないかもしれません。



学部あれこれ

2022

立正大学各学部から届いたレポートです！

仏教学部

オンラインで『東日本大震災被災地研修・慰霊法要』開催



オンライン研修の様子

3月2日「東日本大震災被災地研修・慰霊法要」を開催し、学部生をはじめ21名が参加した。研修では「南三陸研修センター」協力のもと、

VRを活用した語り部と一緒に町を歩き、震災から11年後の町が復興を遂げ変化している姿をリアルに体験。また、南三陸町は漁業や林業が盛んであることから、事前に配付された材料をもとに、特産のわかめを用いたふりかけ作りや、間伐材を用いたフォーク・スプーン作りを行い、被災地の復興を学んだ。慰霊法要では、お塔婆を書いて法要に参加し、震災で亡くなられた方々への供養を捧げ、被災地の復興を祈った。

文学部

哲学カフェ「Ris 哲」に遊びに来ませんか



対面で開催できていた時期のRis 哲の様。出た意見は、黒板に整理する。

哲学部の学生有志によって月に1回程度、哲学カフェ「Ris 哲」が開催されている。哲学カフェとは、哲学用語を使わずに「人生の意味とは？」「信仰」「夢？現実？」などのテーマについて、対話する場である。哲学カフェの他、橘花祭への参加、立正大学から助成を受けてのRUK cafeでの企画や、哲学プラクティス連絡会への参加、雑誌『みんなで考えよう』への寄稿など積極的に活動し、コロナ禍ではオンラインで哲学カフェを開催している。他学部や他大学の学生、高校生、社会人が参加することもあり、開かれた交流の場となっている。開催についてはTwitterで告知しており、一見さんも大歓迎とのこと。

経済学部

経済学部ゼミナール大会



対面発表会場の様子

第27回経済学部ゼミナール論文大会が昨年11月28日に開催された。学生主体の組織、ゼミナール協議会が運営を担うゼミナール活動の最大イベントである。コロナ禍のため、チームの希望に沿って、23チームが対面会場、27チームがオンライン会場で論文発表と質疑を行った。発表の無い学生は、全員オンラインでの参加とされたが、対面発表会場の様子もオンラインで配信され、学部1年生を含め多くの学生が参加し、大会は盛況のうちに幕を閉じた。各チームは、教員からの助言や学生同士の質疑というフィードバックを受けてゼミナール論文を完成させ、本年も初春に「ゼミナール論集」が無事刊行された。

経営学部

オトナの魅力！ 新学部長と新パンフレット誕生



オトナの香り漂う新学部長

立正大学が150周年を迎える2022年。この節目の年に、経営学部では新しい学部長が就任し、新しい学部パンフレットが誕生する。

新学部長は松村洋平教授。浦安にある某テーマパークを題材に経営戦略について講義する、人気の教授だ。写真を見て欲しい。ダンディな色香が漂うだろう。さて、同じ年にデビューする新しい学部パンフレットも、品川キャンパスのありとあらゆる場所の新たな魅力を切り取り、光と影の織り成す写真がふんだんに使われた力作だ。こちらの写真はない。気になる方は経営学部へ来て、パンフレットを実際に手に取って欲しい。

法学部

法学部創立40周年記念シンポジウムが 開催されました



基調講演の村井敏邦先生(左)と法学部の丸山泰弘先生(右)

「刑事司法・少年司法の担い手教育～司法の課題と大学教育のこれから～」をテーマとして、法学部創立40周年記念シンポジウムがオンライン

で昨年11月に開催された。本イベントは法務省をはじめ多くの外部団体から後援をいただき、本学の心理学部や社会福祉学部などの協力も得て行われた。約100年ぶりに改正された旧監獄法や更生保護法、適用年齢の引き下げが議論となった少年法など刑事司法を取り巻く法改正が行われ、現場にも大きな変化が求められている。そういった場面で活躍する担い手問題と大学教育のあり方について研究者や一線で活躍される実務家などが集まり熱い議論が繰り広げられた。

社会福祉学部

コロナ禍に負けない！ 福祉・幼児教育の専門職養成



学生によるリトミック「虹をくぐろう」

社会福祉学部では、福祉や幼児教育の専門職である社会福祉士・精神保健福祉士・保育士・幼稚園教諭の養成に取り組んでいる。

この2年間、受入先施設への感染拡大防止のため現場実習が代替の学内実習に変更されたり、国家試験対策もオンライン授業になるなど、制約の中でも学生たちは着実に学修を進め、演習と実習に取り組んできた。その結果、音楽教育法であるリトミック指導者資格は合格率100%を達成し、10年連続全国1位をキープしている。2月には社会福祉士国家試験を受験し、多くの合格者を輩出するなど成果をあげている。

地球環境科学部

コロナ禍での野外での実習科目・ フィールドワークの実践



フィールドワークでのマスクを着用しての少人数のグループ学修

本学部では、実験科目や実習科目が重視されており、野外でのフィールドワークを伴う科目も多い。フィールドワークでは講義科目に比べ対面

形式が求められているため、感染予防の観点から工夫を行ってきた。学部として感染リスクを抑える指導方法の周知徹底や、万が一感染者が発生した際の対応などに関するガイドラインを2020年度に策定している。また、フィールドワーク実施において、マスクの常時着用を始め、消毒用アルコールの携帯、参加学生間の密集回避などを実践してきた。教員・学生が一丸となり、安全・安心を確保しながら、フィールドワークにおける学修効果を高める努力を続けている。

心理学部

心理学部の学びの成果を 客観的に測る試み

受験学年	特1級取得 ※全10科目に合格	1級取得 ※6科目に合格	2級取得 ※3科目に合格	合計
2年生	2	2	12	16
3年生	1	16	26	43
4年生	2	4	6	12
合計	5	22	44	71

2021年度心理学検定における立正大学心理学部生の合格者数一覧

心理学部では、数年前から学生が大学で得た知識の量や質を客観的に確認できる手法を模索している。試みの一環として、2年生以上の学生には、合格した科目（例えば、「臨床・障害」、「社会・感情・性格」）の数に応じて、「1級」や「2級」などの資格が認定される外部試験、心理学検定の受験を推奨してきた。昨年度は、より多くの学生に受験してもらえるよう、受験者に対する支援金制度の運用を開始。この制度によって延べ93名の学生が検定に挑戦し、71名が資格認定を受けた。

データサイエンス学部

八街市の小学生による 通学路の安全点検活動を支援



『聞き書きマップ』で記録したデータで安全点検地図を作成

本学部教員の原田豊らが開発した安全点検まちあるき支援アプリ『聞き書きマップ』を用いて、千葉県八街市の小学校において、4年生児童

が自ら通学路の危険箇所を記録して地図にまとめる取り組みが実施された。この取り組みは同市の「学校安全総合支援事業」の一環として行われたものであり、本学部からは原田が講師として参加し、アプリを提供するとともに、校区の地図の作成ならびにフィールドワークの指導・助言を行った。その成果は、1月14日の「公開授業」で市内の小中学校の安全教育担当者などに紹介されたほか、NHK千葉放送局が、この取り組みに関する報道番組を制作中である。

REPORT

150周年記念事業「リーダー養成特別プログラム」

リーダー養成特別プログラムとは

全学部の学生を対象として、新しい発想や自らの可能性を発見できる人材を育成することを目的とし、そのフィールドとして地方創生の先進都市である北海道東川町をキャンプ地としました。本学の教育目標である「モラリスト×エキスパート」を体現する学生を養成するため、計27名の学生が参加しました。

プログラム内容

事前学習

北海道ニセコ町の町長、作家や起業家等を講師として、社会で活躍する世界や地域のリーダーから人生観を学ぶ講義や現場を体験する企業訪問を全14回実施しました。講義後は感想レポートを作成し、学びを振り返ります。

キャンプ

東川町役場での仕事体験や町内の視察、東川町長との交流等を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、東川町への研修は実施困難となりました。しかし、東川町役場の職員の皆様と交流するオンライン研修を2月10日に実施しました。質疑応答の時間を設け、報告会に向けた資料の作成準備等を行いました。

北海道東川町
ホームページは
こちら▶



報告会及び修了式

グループに分かれてプレゼン資料を作成し、羽田空港を舞台として3月19日に成果報告会を実施しました。併せて修了式を開催し、吉川前学長より学生へ修了証が授与されました。



成果報告会及び修了式



講義風景

Topic 三者包括連携協定締結

2021年11月10日に品川キャンパスで、隈研吾建築都市設計事務所及び北海道東川町と、三者包括連携協定を締結しました。また、協定調印式の他、地方創生フォーラム「1人より3人」を開催しました。今後も更なる連携事業を展開していきます。



協定調印式の三者

INVITATION

2022年度立正オープンカレッジのご案内

研究推進・地域連携センターでは、地域交流・生涯学習支援を目的とした立正オープンカレッジを開催しております。オープンカレッジでは前期、後期合わせて立正大学全9学部の講師陣の講義を受講いただけます。

講義会場は熊谷キャンパスの教室となっているため、大学の雰囲気もご体験いただけます。前期の講演内容や日程等については6月上旬ごろ決定いたしますので、是非研究推進・地域連携センターウェブサイトの「お知らせ」をご覧ください。以下のお問い合わせ先までご連絡ください。

※新型コロナウイルスの感染状況によっては、オンデマンドによる開催方法に変更となる場合がございますので、予めご了承ください。

お問い合わせ先

立正大学研究推進・地域連携課 立正オープンカレッジ申込係
電話：048-536-6019 メール：k-risopen@ris.ac.jp

「ミライ会議」

152号で紹介したミライ会議についてOB、OG、現役学生にご協力いただき第2回および第3回を開催した。

第2回：2021年9月15日

ゲスト	本学との関係	内容
岩崎さん	地球環境科学部OG	一般企業に就職した経緯や勤務している業界
樋代さん	経営学部OB	これまでの人生のあゆみや“人とのご縁”“巡り合わせ”

第3回：2021年10月20日

ゲスト	本学との関係	内容
宮崎さん	社会福祉学部OB	自身が活動している災害ボランティア
大石さん	文学部4年	居場所や生きやすさをより良くすること

一旦中断していたミライ会議ですが、実行委員である学生が協議し春に復活することが決まりました。「ご自身のキャリアを学生に伝えたい」「若者と対話し、相互に新たな視点を得たい」と、ゲストスピーカーとしてご参加いただける方はぜひご連絡ください。

詳細は右記よりアクセス <https://www.instagram.com/risshomiraikaigi/>



RISSHOMIRAIKAIGI

上記の詳細については、研究推進・地域連携センターにて発信しておりますので、ホームページをご覧ください。

<https://rpra.ris.ac.jp/>



EVENT

祝、立正大学開校150年 節目の年を彩る様々な企画を随時開催

2022年、本学が開校150周年を迎え、コロナ禍ではあるものの、大学では様々な企画やイベントの開催を実施しています。

2月14日には、石橋湛山和平賞の授賞式を執り行い、受賞者の保阪正康氏による特別記念講演会も併せて開催しました。この賞は、第16代学長の石橋湛山先生が本学の建学の精神として収斂した「真実を求め至誠を捧げよう」「正義を尊び邪悪を除こう」「平和を願い人類に尽そう」という三つの誓いにより表される「立正精神」を体現し、人々の安穏と社会の恒久平和の実現に寄与する活動を実践する人物・団体等に対して、本学が授与する褒賞制度です。感染対策の観点から収容人数50%での開催となりましたが、当日はキャンセル待ちが出るほどの申込みもあり、満員御礼での開催となりました。

また、昨年より制作を進めていたモザイクアートもついに完成し、今年度より学内で展示されています。モザイクアートの原画は『アクティブ&カラフル／建学の精神』をテーマに漫画家・イラストレーターのアリムラモハ氏が担当しましたので、来校の際はぜひご覧ください。

そして、大学の創立記念日である6月15日には、品川キャンパスの石橋湛山記念講堂にて150周年記念式典を執り行うこととなり、一般の方々も来場可能となる予定です。また、来場が難しい場合は立正大学公式YouTubeより、記念式典配信ページからライブで閲覧可能です。

その他にも様々なイベントを計画しています。詳細は大学のホームページをご覧ください。



石橋湛山和平賞特別記念講演会の様子

information

150周年記念事業のご案内

本学では開校150周年を迎えるにあたり、さまざまな企画を用意しています。



■ 公開講話「コロナ禍に生きていく智慧とは」

コロナ禍における不安やストレスに対してどう向き合うか、日蓮聖人の教えを交えわかりやすくお伝えします。

講和の映像はこちらのQRから▶



■ 開校150周年記念ツアー

「バスで巡る日蓮聖人・石橋湛山の起源」(5月)
「鉄道でつなぐ、知のレガシー(遺産)」(8月)
「バスで巡る日蓮聖人の起源」(11月)

お申し込みはこちらのQRから▶



Topic

150周年記念館のロータスホール入口付近にある書を手掛けた本学卒業生の星弘道氏が、日本芸術院の新たな会員となりました。

星氏は、全日本書道連盟の理事長も務めており、教育や国内外との交流にも尽力しています。

日本芸術院は、芸術の発達に寄与する活動を行うとともに、芸術に関する重要事項を審議し、これを文部科学大臣又は文化庁長官に意見を述べるができることとされている、芸術上の功績顕著な芸術家を優遇するための荣誉機関です。



第98回東京箱根間往復大学駅伝競走予選会

総合記録(上位10名の合計記録):11時間25分09秒／順位:31位

No.	氏名	学年	学部	個人記録	順位
1	山本樹	1	データサイエンス学部	1時間05分39秒	188位
2	木實優斗	1	データサイエンス学部	1時間06分00秒	207位
3	牛崎竜空	1	データサイエンス学部	1時間06分55秒	267位
4	河南颯汰	3	地球環境科学部	1時間07分50秒	315位
5	西川優太	1	データサイエンス学部	1時間09分16秒	356位
6	平松幸記	3	社会福祉学部	1時間09分27秒	358位
7	遠山和希	2	社会福祉学部	1時間09分33秒	363位
8	山崎颯太	2	地球環境科学部	1時間09分53秒	375位
9	日向野駿	2	社会福祉学部	1時間10分17秒	386位
10	寺田航大	2	社会福祉学部	1時間10分19秒	387位
11	西堀伶於	2	社会福祉学部	1時間11分17秒	405位
12	坂田陽朗	3	法学部	1時間11分34秒	412位

※学年は2021年10月時点のもの

FEATURED

箱根予選会に出場 本戦出場を目標に、今年度も邁進

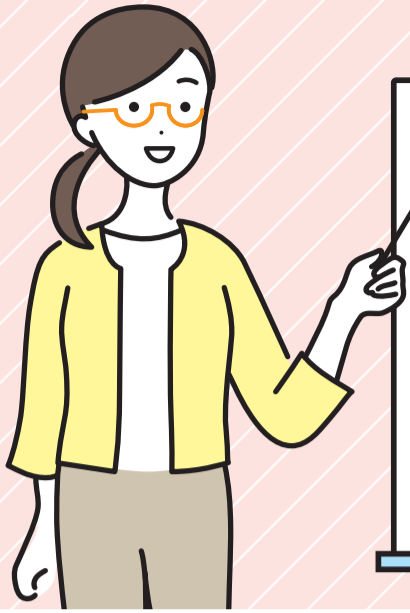
2021年10月23日に第98回東京箱根間往復大学駅伝競走予選会が陸上自衛隊立川駐屯地内周回コース(21.0975km)で開催されました。14名エントリーの中から12名出走し10名の合計記録で競い合いました。総合結果は11時間25分09秒で順位が31位でした。令和2年大会より1つ順位を上げることが出来ましたが、チーム目標としていたタイム・順位を達成することが出来ず、課題の多いレース内容となってしまったので、改善していきたいと思っています。

出場した選手からは、「小さい頃から憧れていた箱根駅伝。4月に入学してから頑張って練習に励んできました。しかし現実には甘くなかったというのが正直な所です。何が足りず、何が必要かを見極め、自覚を持って、チームのペースとして引っ張っていきます。」といった声や「箱根駅伝予選会を終えて感じたことは、身体作りが不十分だったことです。強風の影響で身体がブレてしまい、長距離を走る力が足りていなかったことが後半の失速に繋がってしまいました。しかし初めてのハーフマラソンで、攻めた走りが出来たので、今後さらに高みを目指し頑張っていきます。」といった声が挙がっています。

また、今年度は16名入部しました。2021年の暮れに全国高校駅伝に7区(5km)に出走した滋賀学園高等学校の中野裕太(なかのゆうた)は14分44秒(区間12位)と快走しました。その他の新入生も各地区で活躍し伸びしろのある選手ばかりで、とても期待しています。新入生は上級生の起爆剤となるため更にチームの活性化に繋がり、個人だけでなくチームとして成長していけると考えています。

今年度は公式戦(学連関連)にも数多くの選手を出場させることを目標にしています。昨年は、関東インカレに出場した選手は2名、全国インカレに出場した選手は1名だったので、それを上回り個々の能力を上げれば自ずとチーム力も上がると考えています。また個人目標、チーム目標を達成するために何が足りないかを問いつけながら一人ひとりが自覚を持って生活や競技に打ち込む選手育成を目指し、箱根予選会では12名のハーフマラソン平均1時間05分、20番以内を足掛かりにして、今年10月中旬に開催予定の箱根駅伝予選会に向けて頑張ります。

CAREER SUPPORT CENTER



今年も
オンラインで開催

キャリアサポートセンター

最大規模イベント 「業界・企業研究フェア」

早期化が進む近年の就活

最近の就活においては、動き出しの早い学生と遅い学生に分かれる「二極化」が進んでいます。

2・3年次の早期に企業と繋がりを持った学生は、インターンシップの実習を通じて多くの気づきを得られるだけでなく、エントリーシートや面接等の選考を一足早く経験するため、結果として就活への意識が高まり比較的順調に進む傾向にあります。それに対し、就活解禁となる3年次の3月頃から活動をスタートした学生は、どうしても早期から活動をしている学生に比べて就業意識や業界・企業への理解が不足し、就活が長期化する傾向がしばしば見られます。

就活サイトの調査によると、2023年3月卒業予定の学生について、2022年1月1日時点で筆記試験や面接など「本選考を受けた」という回答が49.2%※1と、ほぼ2人に1人は本選考を経験済みという結果が出ています。2年前の同じ調査では35.2%でしたので、就活の早期化が急速に進んでいると言えます。

一方で当初志望した業界と、内定を得て実際に承諾した業界とでは約4割が一致しないというデータもあり※2、就活を進める中でかなりの割合で志望業界が変化することが伺えます。早期化が進む中であっては業界や企業の研究を早めに行い、選考過程で問われる「志望動機」を固める（深める）ことが、業界の不一致を防ぎ、最終的に納得のいく業界・企業選びに繋がると言えるでしょう。

業界・企業研究フェアを オンラインで開催

この業界・企業研究のためキャリアサポートセンターでは、毎年解禁前の2月に多くの企業・団体を招いて業種や企業の説明をして頂く「業界・企業研究フェア」を実施しています。昨年は年度初めから続くコロナ禍により初めてオンラインで開催し、今年度は対面形式で開催できればと考えていましたが、いまだ収束が見込めない状況のため再びオンライン開催とし、3日間で139社を招いて実施しました。

昨年度は初めてオンライン開催となり大学・企業・学生ともに試行錯誤しながら実施しましたが、今年度は良い意味でオンライン慣れし、各ブースとも学生がメモを取りながら真剣に話を聞く傾聴姿勢や、活発な質疑応答などに対して参加企業から高い評価を頂き、昨年度に続き盛況のうちに終了しました。

この後3月1日の解禁日※3を迎えるとキャリアサポートセンターやリクナビ・マイナビ等のナビサイト、地方自治体など様々な団体があらためて合同企業説明会を開催し、名実ともに本格的な就活のスタートとなります。

就活のオンライン化に 苦慮する学生も

現在の就活について、就活サイトでは以前からオンライン化されていましたが、コロナ禍を経て企業でもオンラインによる選考が進みました。キャリアサポートセンターにおいてもイベントやキャリア相談、資格対策講座等ほぼ全てのプログラムをオンラインで対応し、就活はネット環境さえあればいつでもどこでもできる状態にあると言えます。一方、授業や課外活動等において対面で接する機会が減少し同級生であってもお互いの動きが見えないという状況にもなりました。自ら動き出さないと始まらない就活においては出遅れる学生を生み出し、アンケートでも「何をすべきか分からない」、「業界・企業研究が進まない」など就活を始めなければならないと思うものの動き出しに苦慮しているという声もかなり見受けられました。

また「業界・企業研究フェア」の開催期間中、参加していなかった学生と話す機会があり、参加しない理由を聞いたところ「周りの様子が分からず今まであまり活動してこなかった」とのことでしたので相談に乗りました。その後、業界・企業研究フェアへ参加を促したところ参加することになり前向きな考えも聞けたので、改めて対面の必要性を強く感じることとなりました。

変化する環境にあわせ 対面も交えて支援を継続

今回のイベントは解禁前というタイミングでの開催で、かつては前述の通りこの時期から本格的な就活を始めるというスタートラインという位置付けでしたが、冒頭に記した早期化の流れやインターンシップが盛んな現在の就活においては、むしろ中間地点と言えるかもしれません。

コロナ禍以降、オンライン化をはじめこれまでの就活のスタイルや常識が通じ辛い状況になっていますが、キャリアサポートセンターとしても変化に対応し、学生にタイムリーな情報提供と可能な限り対面を交えた支援を継続していきたいと考えています。



オンラインによる説明の様子



「業界・企業研究フェア」パンフレット表紙

※1 キャリタス就活2023 学生モニター調査結果(2022年1月)より ※2 dodaキャンパス21卒 データより ※3 求人情報の公開や会社説明など広報活動の解禁日

第2回立正大学英語スピーチコンテスト -Rissho Voices- を開催!

2021年11月13日、第2回立正大学英語スピーチコンテスト -Rissho Voices- が品川キャンパスにて開催されました。本コンテストは、立正大学学園150周年記念事業の一環として、国際交流センターが企画・運営をしています。

今年で2回目を迎えた本コンテストでは、予選審査を通過した8名の学生が本選に臨みました。当日は、「フードロス」「人との繋がり的重要性」「ジェンダー」「教育」などについて、学生ならではの視点から分析されたスピーチが繰り広げられました。

コンテストで見事に1位に輝いた王彦雯さん(文学部4年)は、「私は、今まで人前で話すことがあまり得意ではありませんでしたが、スピーチコンテストに出場して人として大きく成長できました。先生にはとても丁寧に教えていただき、先生の指導がなければスピーチコンテストに挑戦することも諦めていたかもしれません。第1位を受賞し、このような素晴らしい経験ができて、最後まで諦めずに取り組んで本当に良かったです。」と話し、審査員からも、「スピーチの構成・まとまり、流暢さ、パフォーマンスなど総合的に優れた素晴らしいスピーチでした。自分で調べたことや個人の経験、分析を各所に織り交ぜたシンプルかつ分かりやすい発表で、テーマに対する王さんの力強いメッセージを感じました。」と講評されました。

また、今回のコンテストでは、ゲストスピーカーとして、大島 啓慈 上人(日蓮宗宗務院伝道部国際課課長、上智大学を経て、立正大学仏教学部卒業)をお迎えし、「言語習得の先にあるもの -ことばが開く扉の向こう側-」をテーマに、英語をはじめとする外国語での布教活動に従事した経験に基づく講話があり、学生からは、「自分にとって重要なものを探したいと思った」「英語を習得し、何をしたいのかを考えるきっかけになった」「言語を勉強する際は、その国の人々や文化を尊重することが必要であると思った」などの感想が挙がりました。

立正大学英語スピーチコンテスト -Rissho Voices-は、2022年度も開催予定です。



出場者のみなさん(発表順)

齋藤 舞花さん(文学部4年)	謝 静さん(心理学部2年)
堀田 零士さん(文学部2年)	王 彦雯さん(文学部4年) 1位
木村 圭一朗さん(社会福祉学部4年) 3位	宮崎 亘悦さん(経済学部1年)
齋藤 圭介さん(経営学部4年)	増田 高大さん(データサイエンス学部1年) 2位

立正大学開校150周年記念YouTubeでは、8名の立正大学生による英語スピーチ発表&ゲストスピーカーによる特別講話が視聴できます。



RISSHO BITO

立正人

【活躍する校友】

東京2020パラリンピックで銅メダル獲得! 次世代の車いすラグビーを担う注目選手

東京2020パラリンピック はせがわ ゆうき
車いすラグビー日本代表 **長谷川 勇基さん**
2016年 社会福祉学部社会福祉学科卒業

2021年8月に行われた東京2020パラリンピックにおいて、本学社会福祉学部卒業生の長谷川勇基さん(BLITZ所属)が車いすラグビーの日本代表として出場し、見事に銅メダルを獲得しました。結果について長谷川さんは、「自国開催ということもあり、何か持って帰らなければいけないと思っていたので、嬉しさよりもほっとした気持ちの方が強かったですね。」と話します。



— 水球選手から怪我を経験して、そして車いすラグビーへ

そんな長谷川さんですが、小学生の頃から水球を始めて、全国大会に出場した経験もありましたが、高校3年生の時に頸椎を損傷し、卒業後、1年間をリハビリ生活に費やすこととなります。そんな中、通っていた所沢市内のリハビリセンターに併設している体育館で行われていた車いすラグビーを見た長谷川さんは興味を持つようになり、練習に参加させてもらうようになったそうです。

— 学生生活を満喫も、就職を機に本格的に練習に取り組む

リハビリを終え、就職か進学で悩んでいた長谷川さんは、福祉系の学問に興味があったため、熊谷市内にある本学の社会福祉学部に入學。その後は大学の友人と過ごしたり、学業に費やす時間が増え、車いすラグビーは趣味程度の感覚で続けていただけだそうです。

しかし卒業後、就職先を考えていた時に、選手としてスポーツに集中することで収入を得る『アスリート雇用』という存在が障がい者にもあることを知り、大学卒業後の2017年の夏から、本格的に車いすラグビーに取り組むようになり、日本代表に選出されるまでに成長しました。「まさか今回の東京パラリンピックに出場するとは想像していませんでしたが、ただ、これからは後輩たちを引っ張らなければいけない立場になるので、次のチーム作りや、育成方法、後輩との接し方などを考えています。」との事。これからの車いすラグビー界をけん引する存在になることが期待されます。

最後に読者とパラスポーツに興味のある方に向けて、「これからも多くのパラスポーツを観ていただくと、見える世界も広がると思うので、ぜひ見てほしいと思います。また、個人としてはこれからの国際大会で金メダルを目指して頑張るので、応援していただけると嬉しいです。」と締めくくった長谷川さん。今後の活動にも期待が高まります。

Wampaku Monogatari Dai.1
 Wilhelm Busch 著, 渋谷新次郎 訳
 明治20年(1887)刊

本書は日本で最初の翻訳絵本である。ヴィルヘルム・ブッシュ (Wilhelm Busch) によるドイツの絵本『マックスとモーリッツ 7つのいたずら物語 (Max und Moritz - Eine Bubengeschichte in Sieben Streichen)』を『わんぱくものがたり (Wampaku Monogatari)』として日本語に翻訳したもので、7つの物語のうち1話と2話を第1に、3話と4話を第2に収めた全2巻の構成となっている。

古書資料館に所蔵しているのは明治20年(1887)に刊行された第1の初版である。発行は羅馬字会で、第1の翻訳者である渋谷新次郎は、羅馬字会の事務局代表者だった。羅馬字会とは、明治18年(1885)に結成された、ローマ字による日本語表記の採用を目指した組織である。本書はこの羅馬字会の活動の一環として、子どもたちへのローマ字表記の普及を目的に翻訳、出版されたものと考えられている。本書は日本語に翻訳したテキストをローマ字で表記しており、冒頭には仮名のローマ字比較表が添付されている。

物語はブラックユーモアな内容で、いたずら好きの2人の子ども、「たろう」と「じろう」(原書では「マックス」と「モーリッツ」)が引き起こす様々な事件をコミカルに描いている。ブッシュのドイツ語原文が韻を踏んでいることに留意して、単なる逐語訳ではない七五調で訳されており、原文同様に、音読をした際、リズムカルに楽しめるよう工夫されている。図版はブッシュのものを変更することなく木版彩色刷りし、原本の風合いに近い形で再現している。

参考文献
 ・青羽古書店 <http://www.aobane.com/books/65>
 ・鳥越信・はじめて学ぶ日本の絵本史I. ミネルヴァ書房, 2001. p.51-56



表紙



冒頭の仮名ローマ字比較表



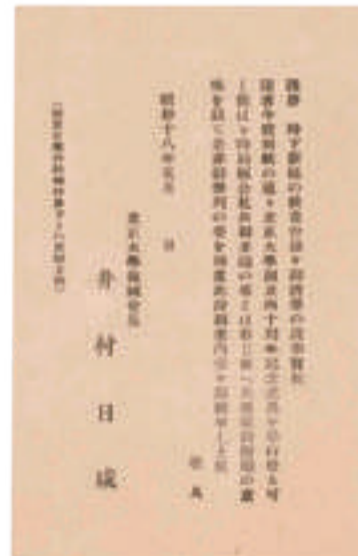
戦時下の周年行事

立正大学は2022(令和4)年に150周年を迎えますが、第二次世界大戦の戦線がいよいよ拡大し空襲がますます激しくなった1943(昭和18)年にも「立正大学創立四十周年記念祭」が開催されていました。本学は専門学校令によって1904(明治37)年に「日蓮宗大学林」という名で設立されたことから、1943年は40周年に相当するため周年行事が実施されたと書かれています(『法華』第30巻第7号、32頁)。

40周年を祝う目的のほかには、白衣勇士(傷痍軍人)の慰問や将来の発展を期す意味もありました。6月14・15日に書道、華道展、弓道大会が開催され、白衣勇士数百名を招待のうえ、希望の書と記念品を贈呈。全学規模の武道大会も開催されています。創立記念日である15日の午後からは「九段軍人会館」で酒井日慎管長が導師となり、創立記



創立40周年記念に行われた学生劇



1943年の創立40周年記念案内

念法要と英霊追悼法要が行われました。その後、陸軍報道部員の講演、学生劇「帰還」「修善寺物語」の上演、「海ゆかば」の合唱をもって閉会。夕方には創立40周年の回顧と本学の発展を期しての晩餐会が開かれました。

1941(昭和16)年より大学生が在学期間を短縮して9月に卒業する「繰り上げ卒業」が開始され(本学は1942(昭和17)年より)、1943年のこの年には「学徒戦時動員体制確立要綱」「在学徴収延期臨時特例」が発令、12月から本学を含めた多くの大学生が戦地に赴くことになります。いまや知る由はありませんが、本学の40周年記念行事は、関係する方々のあいだで束の間のひとときとなったのかもしれませんが。

RISSHO JUNIOR&SENIOR HIGH SCHOOL

立正大学附属立正中学校・高等学校

高等学校卒業式実施される

3月1日、第74回立正大学附属立正高等学校卒業式が挙行されました。コロナ禍の中、一家族1名の保護者限定で入場する形をとりました。

高校1年次は通常の学校生活が送れましたが、残りの2年間は新型コロナの影響で、修学旅行も行けない学年となってしまいました。

卒業生総数333名の中、中高6か年皆勤賞は8名、高校3か年皆勤賞は64名という、基本的な生活ができた優秀な生徒たちでした。また、内部や外部からも多くの賞状が学校長から授与され、厳粛な式典となりました。立正大学へは96名が進学いたします。



職業講話開催される

1月24日、中学1年生対象に本校卒業生が語る「職業講話」が開催されました。卒業生が現在の仕事に就くまでの動機や、仕事の内容、苦労などを後輩の生徒たちにわかりやすくお話していただきました。環境省の丸山久美さんは沖縄からリモートで参加していただきました。



前列左から、小林楓子さん(証券会社)、小高歩望さん(看護師)、大山真代さん(CA)
後列左から、金子信也さん(飲食業)、同級生の佐藤一仁さん、村上主吏さん(パイロット)、
永野大輔さん(作曲家)、松原元さん(大田区区議会議員)

RISSHO UNIVERSITY SHONAN HIGH SCHOOL

立正大学淞南高等学校

創立60周年を迎えて

2021年度、本校は創立60周年を迎えました。コロナ禍の中、規模は縮小となりましたが無事式典を挙行しました。式典では原点である創立の理念を全校生徒で「淞南らしさ」ということを考えることで振り返り、価値観の多様化が進み、加速度的に変化を続ける現代社会において、どのような人物となるべきかを考える一年となりました。これから求められるのは「取り組むべき課題を自ら設定し、未来を見据えて有効な解決策を編み出す力」を養うことです。

本校はサッカー部、野球部、マーチングバンド部、射撃部が4本柱となって全国レベルの活躍を続けており、仲間と共に切磋琢磨する取り組みの中で、自分自身を磨いています。

そしてこの60周年の記念すべき年に、新たに島根県でも初めてとなるeスポーツ部を創部しました。eスポーツ部は創部1年目にして全国大会出場を果たし、5本目の柱として自分の可能性にチャレンジする環境が誕生しました。

これからこの5つの柱となる活動を通して、勉強に部活動に、そして人としての成長に全校生徒が一丸となって明るく前向きに進んでくれることを願っています。

校長 北村 直樹

eスポーツ部創部記念式典を挙行

2021年12月14日に、島根県eスポーツ連合主催のeスポーツ部の創部記念式典を全校生徒で挙行しました。式典では、全国高等学校eスポーツ連盟大浦豊弘理事が来賓として出席頂き、祝辞を頂きました。eスポーツ部の創部式典としては、国内最大規模での開催となりました。

eスポーツ部 2021年戦績

- NASEF JAPAN MAJOR Rocket League Tournament Summer 2021 決勝大会 出場 (全国ベスト8)
- 第4回全国高校eスポーツ選手権 ロケットリーグ部門 Bブロック 準優勝 (全国ベスト16)



立正大学 強化クラブ情報

ラグビー部男子 悲願の1部復帰！陣内^{じんのうち}キャプテンを中心に大学選手権を目指す



2021年12月11日に熊谷ラグビー場で行われた専修大学（1部8位）との関東大学リーグ戦1部2部入替戦では、コロナ禍にもかかわらず、多数の教職員、強化クラブの関係者、そして保護者が応援にかけつけ、53対47の激闘を制し、8シーズンぶりの1部リーグ昇格を果たすことが出来た。

「応援いただいたみなさまにこの場を借りて、御礼申し上げます。さて、2022年から日本ラグビーの最高峰であった“トップリーグ”が“リーグワン”という新しいリーグに変わりました。2019年日本で行われたワールドカップで、日本代表の大躍進を果たす原動力となった選手が多数在籍するパナソニックも、本拠地を熊谷市に移して、「埼玉パナソニックワイルドナイツ」と名前を変えました。ワイルドナイツと本学ラグビー部が躍進することで、ラグビータウン熊谷を盛り上げ、大学の目指す『モラリスト×エキスパート』のパイオニアとなれるよう、日々の生活、そしてトレーニングに励んでいきます。ラグビー部の次なる目標としては、「大学ラグビーフットボール選手権大会（大学選手権）出場」になります。主将は1年時からスタメン出場し、2021年シーズンもリーグ連盟ベスト15に選ばれた陣内源斗（社会福祉学部4年）が選出されました。今年もチームスローガンである「主体性」を掲げ、チームカルチャーである「挨拶をする」「100%でやる」「ノーポイズントーク（毒を吐かない＝文句を言わない）」をやりきり、必ず目標を達成できるように取り組んでいきます。3月には、23名の新入部員が入部となりました。昨年末にかけて行われた全国高校ラグビーフットボール大会に出場した多数の選手が入部し、期待が持てます。変わらぬ皆様のご支援、ご声援のほど、宜しくお願いいたします。」

サッカー部

Jリーガー多数輩出も悔しい2部降格 1部昇格を目標に新体制始動



新主将の平松航（地球環境科学部4年）

昨シーズンは、激戦の末に関東大学リーグ戦1部を11位で終え、2部リーグ降格となった。しかしながら、J1リーグに孫大河（サガン鳥栖）・田中宏武（北海道コンサドーレ札幌）、J2リーグに神戸康輔（栃木SC）、J3リーグに金浦真樹（藤枝MYFC）の4名のJリーガーが誕生した。これも学生たちが日々、強度の高い厳しい練習に取り組んだ努力の賜物である。

2022シーズンは『1年で1部復帰』を達成すべく、主将には平松航（地球環境科学部4年・DF）が任命された。平松は、「昨年は目標を『日本一』と掲げながらも、2部リーグ降格となり、悔しさの残る1年でした。今年は選手・マネージャー・スタッフ一丸となり『1部昇格』の結果を残し、立正大学の価値を改めて証明したい。個人としては、主将としてチームの目標を達成することはもちろん、自身の夢も叶えるために人一倍努力をしたい。また、日頃より他の模範となるように心がけ、社会に通ずる人格者になれるよう頑張りたいと思う。」と語る。

「支えてくれる方々への感謝の気持ちを忘れず、チーム一丸となって全力で戦います。熱いご声援よろしくお祈りします。」

ラグビー部女子

国際大会も徐々に再開 次世代のスター育成に向け日々奮闘



新型コロナウイルスの感染収束が見えない中で、今まで中止や延期されていた国内外の競技大会も少しずつ再開されてきた。ラグビー部女子としても活動をさせていただいている事に感謝し、強化クラブの皆とも励まし合い、協力しながら日々の活動に励んでいる。

私達の目標は日本を代表する選手に1歩でも近づく事、そして日本を代表して、立正大学から世界へ挑戦し続けることである。

今年度は女子15人制のワールドカップ（ニュージーランド開催）が予定されており、1人でも多くの学生が日本代表選手になれるよう立正大学の学生として努力を続けていく。

「学生の皆さん、共に夢と情熱を持ち続け、一緒にこの苦難を乗り越えていきましょう。」

硬式野球部

スローガンは「PlusUltra ～超変革～」 金剛新監督のもとで1部復帰を目指す



新主将を務める奈良間大己（法学部4年）

4月に入り東都大学野球春季リーグ戦が開幕し、熱戦が繰り広げられている。昨年は入替戦にて敗北を喫し、2部降格となってしまった。その悔しさをバネに選手たちはオフシーズンや春季強化練習を経て成長を得る取り組みをしてきた。

今年も、新型コロナウイルス感染症の影響により、遠征によるキャンプは中止となった。代替で熊谷キャンパスにてチーム全員で強化練習を行う事になったため、より効率性を求めた練習を展開していく必要性があったが、学生が中心となって知恵を出し合いメニューを組み、実践したことにより、チーム全体の底上げを図ることができた。

また、今季は「更なる高みを目指していこう」という意味を込め「PlusUltra ～超変革～」というチームスローガンを掲げた。チーム全体でこの言葉を共有する事で士気を高め、チームの結束力を高める事ができた。金剛監督が初の指揮をとるリーグ戦も中盤に差し掛かっている。金剛監督の新たな風と共に本学野球部が長年掲げてきた「守り勝つ野球」の実践をチームの柱とし、堂々とした振る舞いで1部復帰に向けて突き進んでもらいたい。

CIRCLE 2022

＼ 学生生活を充実させよう！ ／

本学には100以上の様々な課外活動団体が活動しています。今回は、「現代写真研究部」と「剣道部」を紹介します。

CIRCLE INFO 現代写真研究部

コロナ禍でも集え！写真好き！ 一眼でもスマホでも楽しめる現代写真研究部

現代写真研究部は、130名以上が在籍する大規模なサークルです。品川、熊谷それぞれのキャンパスに部員が在籍していますが、普段は別々に活動をしています。今回は、品川キャンパスで広報幹部を務める前野竜也さん（文学部4年）と、石橋和樹さん（法学部4年）にお話を伺いました。

現代写真研究部の主な活動としては、月に1回実施される写真遠足や、学外での写真展示会等が挙げられます。部について前野さんは、「多くの部員がいる中で、カメラやレンズにこだわる人もいれば、スマホで撮影する人もいますし、撮った写真を積極的に展示会に出す部員もいれば、趣味としてたしなむ程度の部員もいます。ニーズは様々です。」と話し、続けて石橋さんは、「自分は入学当初からサークル選びに悩んでいる時、現代写真研究部のパネル講習会に参加しました。その時の部の雰囲気を感じて入部をしましたが、今ではオールドレンズを購入するほどにはまっています。」との事。現在は対面での活動が制限されていますが、その状況でもSNSやオンラインツールを活用した『オンライン部室』を開設し、交流会やカメラ講習会を実施しているそうです。

部の最大のイベントは、年に2回実施される学外での展示会です。渋谷にあるギャラリー・ルデコを利用し、50～60枚程度展示しています。展示会ではアンケートも実施しており、部員のモチベーションや技術の向上にもつなげるなど、写真を学外の人に見てもらえる機会がある事も写真部の魅力の一つです。

最後に、サークルに興味がある方へ向けて、「写真サークルに入部してもらえれば、臨時のオンライン活動などで最大限楽しめるように頑張るので、コロナ禍でサークル選びに悩んでいる新入生がいたら、ぜひオンライン体験に来てほしいです。」と締めくくりました。



稽古中の様子

CIRCLE INFO 体育会剣道部

文武両道で日々成長 目指すは男女で全国大会出場

体育会剣道部は、品川キャンパスと熊谷キャンパス合わせて約50名の部員が在籍し、木曜日を除いて稽古が行われ、目標である全国大会出場に向けて日々稽古に励んでいます。

剣道部の特徴の一つとして、男子主将と女子主将がいることが挙げられます。この狙いについて、女子主将の山中実優さん（仏教学部4年）は、「男女共に主将がいることで、剣道部として全員で活動していく中でも、男子と女子それぞれの活動を確立し、男女両輪で部を運営していくことで、目標達成へ向けて努力できる環境を作り上げています。」と話します。

また、卒業生とのつながりも強く、稽古に参加したり、大会の応援に来ていただくこともあるそうです。

そんな二人に剣道部の魅力について伺うと、隈元佑耶さん（法学部4年）は「全日本大会を目標にして活動しているので、大学の中でも最も活発に活動を行っている部活であることが魅力だと思います。部員間でも切磋琢磨しながら、明るい雰囲気でも活動しています。」と話し、山中さんは「剣道部では、指導者が言葉使いやメールのマナーなどを教えて下さるので、社会でも役に立つような目上の方への接し方などもしっかりと学ぶことが出来ます。」と話してくれました。ただ稽古をこなすだけではなく、人としての教育にも力を入れて活動している事が伺えます。

最後に読者へ向けて、「剣道部は全日本大会を目標に活動しているので、そこを目指すとともに、人間形成を行って、文武両道を体現しながら、学園生活を充実させていきます。これからも応援よろしくお願いたします。」と隈元さんが締めくくりました。剣道部の今後の活躍にも期待です。

令和3年度 受章・受賞のご報告 功績や活動が学外でも認められました



経営学部の加藤吉則名誉教授が 瑞宝中綬章を受章 自身の研究を生かし学内外で幅広く活躍

加藤名誉教授は、本学の経営学部長、学園常任理事、副学長等を歴任し、平成25年に定年退職するまで、本学での教育に尽力しました。国際的な経歴としては、英国の複数の大学で客員教授を務め、平成8年には、中国の青島海洋大学（現：中国海洋大学）の名誉教授の称号を授与されました。

副学長および常任理事在任時には、大学財政の健全化に尽力し、後の大学運営の基盤を作る大きな力となり、経営学部長としては、学部カリキュラムの現代化に力を入れ、いち早くセメスターを基礎とした先進的な構造を導入すると同時に、国際化に対応したアジア言語の必修化、産学連携の授業などを積極的に取り入れました。

また、大学人としての社会的責任を強く意識し、地域活動に積極的に関与しました。多くの協議会委員や委員長を務め、研究者であり教育者としての経験を土台に、よりよい社会を作るために尽力しました。

品川キャンパス図書館が文部科学大臣賞を受賞

本学図書館は、毎年行われる国内の図書館界最大の催しである第23回図書館総合展（2021年11月実施）内の第7回図書館レファレンス大賞において【コロナ禍における非来館型サービスの拡充とTeamsを活用した調査体制の構築】で文部科学大臣賞を、古書資料館は【コロナ禍における「開架で古書」「古書に親しむ講座」の実践から広がるレファレンスサービス】で奨励賞を受賞しました。同一組織内の二つの図書館が同時受賞したことがさらに評価され、特別賞としてコロナ感染対応図書館優良表彰も受賞し、同総合展に出展している企業推薦による日本事務器賞も併せて受賞しました。

図書館（品川熊谷両図書館）は、入構制限下での学生からのレファレンス相談に対してTeamsを活用し情報の共有を正確に行い、迅速に対応できる体制を構築した点が高く評価されました。

古書資料館は、取り扱いが古書にもかかわらず開架を行い、実際に手で触れられる数少ない専門図書館です。入構制限下で、その最大の特色が生かされない状況の中、「バーチャルツアー」と称し、館内全体が見渡せる場面から目的の書架へズームアップして、書誌情報が得られる仕組みを構築し利用者のサポート体制を作り上げました。また、従来の対面式講座についても通信講座形式に変更し、定員をはるかに上回る申し込みがありました。

品川熊谷両図書館・古書資料館ともにコロナ禍の中、いかに図書館利用者に最大限の学修研究の場を提供するかを常に強く意識を持ちながら創意工夫を行ったことが高く評価されたと考えており、これに慢心することなくこれからも利用者に満足していただける蔵書・データのラインナップ充実、対応システムのブラッシュアップに努めてまいります。



安否確認システム登録のお願い

本学では、自然災害や地震発生時に、在籍する学生の安全確保を目的とし、緊急連絡ならびに安否確認の手段としてセコムトラストシステムズが運営する「セコム安否確認サービス（e-革新）」を導入しています。

お問い合わせ 品川学生生活課 03-3492-6698 / 熊谷学生生活課 048-536-6012

パソコンでの登録やその他詳細については、『ポータルサイト> My ツール > キャビネット>3. 学生生活支援>6. 安否確認システム内の各種資料』を参照してください。

企業コード:01013(半角) パスワード:生年月日の下4ケタ(月日)
ユーザーID:学籍番号(英字は大文字) (例)4月1日→0401



▲ QR コードはこちら

▶ 本紙へのご感想を
お待ちしております！



「立正大学学園新聞」では皆さまからのご意見・ご感想を募集しております。

立正大学 検索
www.ris.ac.jp



公式サイト



公式facebook



公式Twitter



モリスTwitter